

水に沈んだ青い月

——ひとつになることが苦手なあなたへ

葉晶



青山ライフ出版

今も昔も、不確かな情報で
人々が右往左往することは変わりません。

その結果、いつもいる場所で
生きることがつらくなる人もいると思うのです。

でも、居場所を変えてみたら……。

みんなと一緒にいなくてもいいのです。

時間がかかっても、心が落ち着き、
希望もみえてくるかもしれせん。

青い月のお話が、

少しでも誰かの心の支えとなりますように。





遠い昔、山奥深くに、大きな湖がありました。

向こう岸が見えない、大きな大きな湖です。

そのほとりにはいくつかの村がありました。

訪ねてくる人は、ほとんどいません。

村人たちは、生きるために必要なすべてのものを、仲良く分け合って暮らして
いました。

食べ物を分け合ったり、道具を貸し借りしたり。

山々に囲まれた村々は、夕暮れも早く、外を歩くには、月明かりがとても大切
でした。

夜空に浮かぶその月の明るいこと!!

月は、湖にも映り、あたりはより一層明るく、隣村に行くときも、夜道を安心

して歩くことができました。

村人は、月を「月神様」と呼び、とても感謝しておりました。

夜空に浮かぶこの月は、

実は、ふたつ浮かんでいたのです。

ひとつは、今も見える白く輝くお月様。

もうひとつは、薄青く光るお月様。

ふたつ、いつも並んで浮かぶ月でした。

けれど、白い月があまりに明るく光るので、隣に並び静かに光る青い月は、人間には見えていなかったのです。